

道成寺の由来

道成寺（どうじょうじ）は大正元年（701）に創建された和歌山県で一番古い寺です。最初の宗派は法相宗（ほっそうしゅう）でしたが、江戸時代に紀州徳川家の御命で天台宗に変わりました。

御本尊は千手観音菩薩様（せんじゅかんのんぼさつ、国宝、9世紀、像高3m）です。宝仏殿には御本尊はじめ国宝や重要文化財など二十数体の仏様をおまつりしています。



道成寺の七不思議

安珍も清姫も下りることが
できなかつた石段を私は降りる
千年の昔の不思議を胸に



宝仏殿の内部

名物 絵とき説法



延長六年（928）に、道成寺で大事件が起こりました。熊野詣の山伏・安珍（あんちん）を恋した清姫（きよひめ）が、安珍の跡を60キロ以上も追いかけて、道成寺の鐘楼に隠れている所を焼き殺してしまいました。事件は『道成寺縁起』（どうじょうえんぎ、重要文化財、14世紀）という絵巻に描かれ、今もその写本を広げて、絵とき説法が行われています。毎日平均7～8回、毎年十数万人にお聞きいただいています。



道成寺

電話 0738-22-0543

Fax 0738-23-3806

〒649-1331 和歌山県日高郡日高川町鐘巻 1738

ホームページ <http://dojoji.com>

Eメール info@dojoji.com

境内を一周しながら、七不思議の説明をお聞きいただくことができます。料金や所用時間については、寺務所までお気軽におたずね下さい。

Seven wonders of Dojoji temple

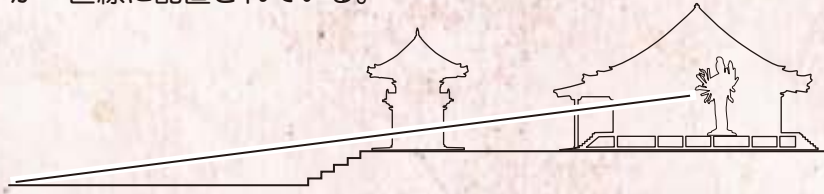
一、石段の不思議

正面の石段は、登りやすく、降りやすいと言われる。
左右の土手が逆八の字に開いていて、遠近法を逆利用している。



二、仁王門の不思議

御本尊が我々を見守って下さるように、本堂、門、石段、参道が一直線に配置されている。



三、三重塔の不思議

一階と二階はふつうの垂木（たるき）、三階だけ扇垂木（おうぎだるき）になっている。



三階の扇垂木



一・二階の平行垂木

ノミで死んだ棟梁（とうりょう）
塔を建てた棟梁は、完成後に「全部扇垂木にしたら良かった」と悔やんで、三階からノミをくわえて飛び降り自殺したと言う伝説が残っているが、そんな事実は無い。
おそらく飲み過ぎで命を落としたのだろう。

四、鐘楼の位置

最近の発掘調査で、創建時の道成寺が法隆寺を左右逆にした伽藍配置（がらんはいち）だったことが判明した。
では、法隆寺に今も残る鐘楼を道成寺に当てはめると・・・
入相桜（いりあいざくら）という名木があった。
桜の回りからは、なんと焼け土が出土した。
やはり鐘楼で放火心中があったのか？



「紀伊国名所図会」嘉永4年（1851）

山里の 春の夕暮れ 来てみれば
入相の鐘に 花ぞ散りける
古今和歌集 能因法師（のういんぼうし）

五、御開帳の不思議

道成寺には三体の千手観音様がまつられ、そのうち一体は33年に一度、春33日間だけ御開帳（ごかいちょう）する秘仏（ひぶつ）になっている。

次は平成50年（2038）の予定。

秘仏とは、見えない所から我々の心を導いて下さる仏様。
あなたの大切な方に、秘仏の由来を伝え、「次の御開帳に一緒に行こうね」とお誘い下さい。
そうするだけで、あなたとその方との心の絆を秘仏様が深めて下さるでしょう。



秘仏千手観音像
（重文、14世紀、像高3.6m）

六、娘道成寺の人気

安珍と清姫の物語を題材にした古典芸能は「道成寺物」と呼ばれ、能楽、文楽、歌舞伎、日本舞踊、邦楽など、多くの分野で特別に重要な曲として扱われている。
中でも、宝暦3年（1753）に初代中村富十郎が演じた『京鹿子娘道成寺』（きょうかのこむすめどうじょうじ）は舞踊の最高傑作とされる。

千手観音様は、我々を沢山の
手と道具で救って下さる仏様。

道成寺にちなむ悲恋物語も古典芸能も、悩み多き我々のために千手観音様が差しのべて下さっている御手の一つなのだろう。



七、無き鐘ひびく道成寺

道成寺は千年前に安珍清姫事件で初代の鐘を、四百年前に豊臣秀吉公の雑賀攻め（さいかぜめ）で二代目の鐘を失った。

二代目の鐘は今も京都市の妙満寺（みょうまんじ）にあるが、もはや道成寺で鐘の音を聞くことは無い。

初代の鐘は『道成寺縁起』という絵巻を、二代目の鐘は道成寺物の舞踊を残した。
道成寺の二つの鐘は、耳ではなく心に響く鐘となったのである。



「道成寺二代目梵鐘」妙満寺蔵